

企画展

# ショーン・タンの世界展

## どこでもないどこかへ

2019年5月11日(土)



7月28日(日)

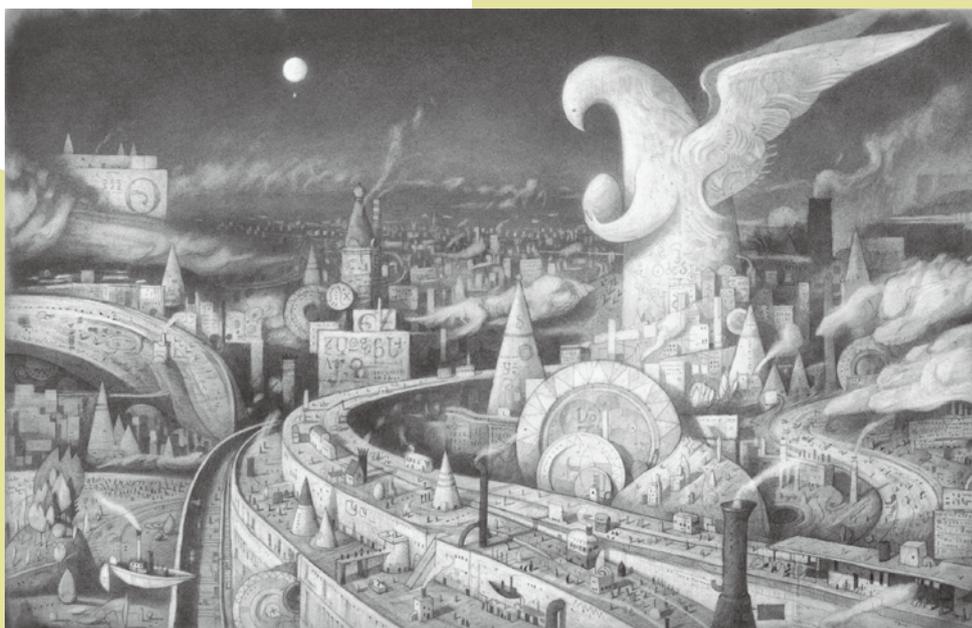
主催：ちひろ美術館 監修：ショーン・タン、ちひろ美術館 後援：オーストラリア大使館  
 協力：株式会社河出書房新社、カンタス航空、John Huddy  
 企画制作：株式会社求龍堂、株式会社廣済堂 特別協賛：株式会社ジャクエツ

展覧会公式サイト(3月下旬オープン)  
<http://www.artkarte.art/shauntan/>

僕の心を惹きつけてやまないのは、  
 常に中心にあって繰り返し沸き起  
 くる疑問だ  
 ——どこかに帰属する、というのは  
 そもそもどうということなのだろう？

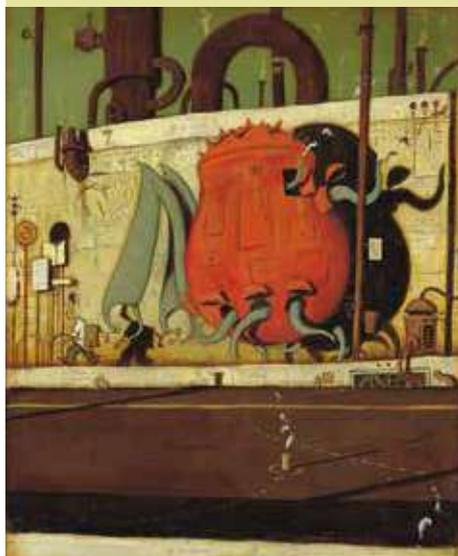
ショーン・タン

『見知らぬ国のスケッチ アライバルの世界』  
 ショーン・タン著 小林美幸訳(河出書房新社)より



1. 『アライバル』より 2004～2006年

オーストラリアの作家、ショーン・タン(1974～)は1999年に刊行した初めての絵本『ロスト・シング』を元に2010年に短篇アニメーション映画を発表し、アカデミー賞の短篇部門の賞を受賞しました。2006年に発表した文字のないグラフィック・ノベル『アライバル』は、大きな反響を呼び、23の言語で刊行されています。日本でも、その独自の世界観と表現方法で、熱狂的なファンを獲得しました。本展は、タンの全面的な協力のもとで開催される日本初の大規模な個展となります。最初の絵本から最新作まで、彼の緻密で壮大な創作の秘密を解き明かします。



2. 『ロスト・シング』より 1999年

### ▶ 居場所を求めて

一貫してタンが描いているのは、何かが失われ、ほころびが生じた世界。しかし、そこには人々が共有してきた「いつか見た光景」が織り込まれ、新たな世界との出会いと希望の萌芽が描かれています。『アライバル』、『ロストシング』、『遠い町から来た話』の原画、資料、映像を展示します。



3. 『エリック』より 2007年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団  
 ちひろ美術館・東京

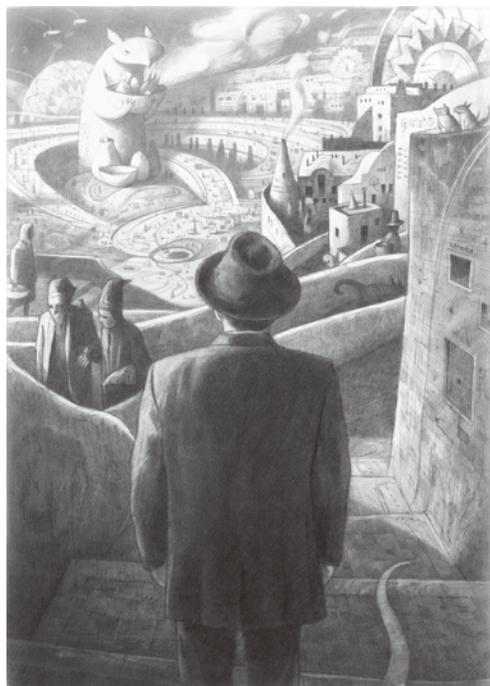
chihiro.jp

TEL.03-3995-0772(業務用)

お問い合わせは、広報担当：高津・入口・北村まで

## ▶ 大作『アライバル』ができるまで

移民をテーマにした文字のないグラフィック・ノベル『アライバル』は、制作に約6年の歳月を費やしました。イメージをスケッチしたり、自分がモデルとなって写真を撮ったり、写真をコラージュしたり、架空の国の情景をディテールに至るまでつくりあげた過程を習作や資料とともにご紹介します。



4. 『アライバル』より 2004～2006年



『アライバル』のためのスケッチ 2004年



5. 『アライバル』より 2004～2006年

## ▶ 想定外の変な生き物

タンが描く世界には、戦争や災害のメタファーのようなモンスターがいる一方で、人間と共生する不思議な生き物が登場します。タンのイマジネーションから生まれたこれらの生き物は、人々が共同幻想としてつくりあげた神話のなかに出てくる架空の生き物にも似て、物語の世界を豊かにする存在です。タンの世界に住む変な生き物たちを立体作品も含めて、たっぷりご紹介します。



6. いたづらがきをするやつ 2011年

## ▶ どこでもないどこかへ

タンにとって、日常の観察は創作の出発点といえます。タンが描く風景は、物語の原型を宿しています。自然の形と人工物の組み合わせは、タンのイマジネーションを刺激し、現実の風景のなかに、どこにもない世界を浮かび上がらせています。日常の風景を独自の視点で切り取った油彩画や、最新作“Tales from the Inner City”などを展示します。



8. Tales from the Inner Cityより 2018年



7. 「火曜午後の読書会」『遠い町から来た話』より 2004年





シヨーン・タンのアトリエ



シヨーン・タンの制作ノート

インスピレーションを描き留めた制作ノートや、再現アトリエも展示します。会期中、タン本人からリアルタイムで届けられるドローイングが増えていく予定です。



### シヨーン・タン Shaun Tan (1974～)

1974年オーストラリア生まれ。幼いころから絵を描くことが得意で、学生時代にはSF雑誌で活躍。西オーストラリア大学では美術と英文学を修める。オーストラリア児童図書賞など数々の賞を受賞。2006年に刊行した『アライバル』は23の言語で出版されている。イラストレーター、絵本作家として活躍する一方、舞台監督、映画のコンセプトアーティストとしての活躍の場を拓いている。9年の歳月をかけて映画化した『ロストシング』で2011年にアカデミー賞短編アニメーション賞を受賞。同年、アストリッド・リンドグリーン記念文学賞も受賞。

### 展覧会関連書籍

書名：シヨーン・タンの世界 どこでもないどこかへ（仮） 著者：シヨーン・タン 監修：ちひろ美術館  
仕様：B5変型（257×188ミリ）、カバー掛け並製本、総頁192頁（予定）、掲載作品点数約130点  
予価：本体2,500円＋税 発売：2019年5月17日（予定、展覧会先行発売） 出版社：求龍堂

### 同時開催



9. ほおじろの巣と少年  
『坪田譲治 自選童話集』（実業之日本社）より 1971年

## ちひろが描いた日本の児童文学

第二次世界大戦後、日本では出版文化の隆盛とともに、装丁や挿し絵、口絵を伴う豊かな単行本のかたちで児童文学が子どもたちに手渡されていきました。いわさきちひろも児童文学を描いた画家のひとりです。本展では、絵本とは異なる側面からちひろが残した仕事をたどります。戦前から受け継がれる日本独自の情趣、社会問題をテーマとした作品、当時、急速に過去の記憶となりつつあった戦争をテーマにした作品、失われゆくふるさとの自然を描いた作品などから、ちひろが活躍した時代も浮き彫りにします。



10. 「ノンちゃん雲に乗る」『少年少女日本文学全集16』（講談社）より 1962年



11. りゅうに乗る男子  
『りゅうのめのなみだ』（偕成社）より 1965年

### 主な出品作品

- 『りゅうのめのなみだ』
- 『花の童話集』 『ひさの星』
- 『赤い蝋燭と人魚』



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団  
ちひろ美術館・東京

chihiro.jp

TEL.03-3995-0772（業務用）

お問い合わせは、広報担当：高津・入口・北村まで

## 2019年5月11日(土)～7月28日(日) 会期中のイベント

※ショー・タン展開連イベントは、現在計画中です。詳細が決まり次第、告知します。

### ●わらべうたあそび

6/29(土)11:00～11:40

リズムにあわせて体を動かしたり、声を出して歌ったり。  
物語の入り口となる「わらべうた」を親子で楽しみましょう。

講師：服部雅子  
(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象：0～2歳児と保護者

定員：15組30名

参加費：無料(別途入館料)

\*要申し込み 5/29(水)受付開始



### ●松本猛ギャラリートーク

5/19(日)15:30～

ちひろの息子である松本猛が、作品にまつわるエピソードなどを、お話しします。

講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問) \*参加自由、無料

### ●国際博物館の日 たてもの探検ツアー

5/18(土)15:00～15:40

ちひろ美術館・東京の建物(設計・内藤廣)に込められた  
想いと見どころをご紹介します。

定員：20名

参加費：無料(別途入館料)

\*要申し込み

4/18(木)受付開始



### ●学芸員によるギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00～ \*参加自由・無料

### ●絵本のじかん

毎月第2・4土曜日 11:00～ \*参加自由・無料

協力：ねりま子どもと本ネットワーク

## 次回展示予定 2019年8月2日(金)～10月27日(日)

### ●<企画展>

### 「ちひろさんの子どもたち」

谷川俊太郎 × トラフ建築設計事務所

詩人として長年第一線で活躍している谷川俊太郎は、その幅広い詩作のなかで、子どもへの共感を込めた詩や、子どもにもわかる身近なことばで書いた詩も数多く手がけています。いわさきちひろの絵に詩を寄せた絵本『なまえをつけて』では、谷川のことばが絵のなかの子どもに新たないのちを吹き込みました。本展では、異なる個性でありながら、ともに子どもの目を持ち続けたふたりの絵と詩を通して子どもを見つめると同時に、トラフ建築設計事務所が空間構成にわり、子どもも楽しい展示空間をつくり出します。



いわさきちひろ 赤い帽子の男の子 1971年

トラフがちひろの描く夏の子どもの麦わら帽子から発想した「子どものへや」では、本展会期中、さまざまなワークショップを開催します。



トラフ建築設計事務所 子どものへや 2018年

\*詳細は、ちひろ美術館ホームページでご案内します。  
\*イベント参加費のほか、別途入館料が必要です(高校生以下は入館料無料)。  
\*定員、参加費が記載されていないものは、参加自由、無料です。  
\*展覧会名・会期・内容等は、予告なく変更する場合がございます。

【ハッシュタグ#chihiroをつけて情報をシェアしましょう!】  
Instagramやtwitterで #chihiro のハッシュタグをつけて投稿していただいた写真は、公式サイトでご覧いただくことが可能です。(展示室での撮影はご遠慮ください)

●展示会期…2019年5月11日(土)～7月28日(日)

●開館時間…10:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

●休館日…月曜日(祝休日は開館、翌平日休館) ※7/22は開館

●入館料…大人800円/高校生以下無料

団体(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をご提示の方、公式WEBサイト割引特典提示の方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

●交通…◎西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

chihiro.jp

お問い合わせは、広報担当：高津・入口・北村まで Email: publicity@chihiro.or.jp

テレホンガイド 03-3995-3001 03-3995-0772(業務用) FAX 03-3995-0680